

芙蓉総合リース株式会社
 代表取締役社長 辻田 泰徳
 東京都千代田区神田三崎町 3-3-23

当社最大規模となる太陽光発電所の商業運転開始について

芙蓉総合リースの連結子会社である合同会社浪江酒井ソーラーは、2020年2月1日に福島県浪江町で「浪江酒井第一・第二太陽光発電所」の商業運転を開始しました。本発電所は国が指定する「帰還困難区域」での初の事業です。なお、本事業における発電設備建設資金の一部は2018年11月に発行したグリーンボンドにより調達しております。

今回稼働した太陽光発電所の設置容量は約60MW-dc^(*1)、年間予測発電量は約6,027万kWhとなり、当社の太陽光発電事業として最大の発電所となります。一般的な家庭の年間消費電力量に置き換えると約16,700世帯分^(*2)に相当します。

今回商業運転を開始した発電所を含め、当社グループはこれまでに全国34ヵ所、合計約200MW-dc^(*1)の太陽光発電所を稼働・運営しています。



浪江酒井第一・第二太陽光発電所

■浪江酒井第一・第二太陽光発電所の概要

事業会社	合同会社浪江酒井ソーラー
発電所所在地	福島県浪江町酒井地区
運転開始日	2020年2月1日
出力規模（モジュール容量）	約60MW-dc（第一・第二発電所合計）
年間予測発電量	約6,027万kWh

芙蓉リースグループは、中期経営計画「Frontier Expansion 2021」において、「エネルギー・環境」を戦略分野の一つと定め、省エネ・脱炭素に資するビジネスを推進しております。最近では、消費電力の再エネ化を宣言した企業・団体を対象とした独自のファイナンスプログラム「芙蓉 再エネ 100 宣言・サポートプログラム^(※3)」の構築や、太陽光発電事業で得た知見を活かした、環境価値のあるグリーン電力を供給する「PPA^(※4)（電力販売契約）サービス」の提供など、再エネ化・省エネ化に取り組む顧客へのソリューションの提供とファイナンス面でのサポートを拡大しています。

また、国内総合リース会社として初めての「RE100」参加企業として、自社の再エネ化も進めてまいります。

当社は今後も再生可能エネルギーの普及に努めるとともに、気候変動問題への取組を進めることで、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

(※1) dc(direct current)、直流電流を指します。

(※2) 一世帯当たり 3,600kWh で算出しています。

(※3) 「再エネ 100 宣言 RE Action」及び RE100 参加企業・団体を対象とした優遇ファイナンスプログラムです。



(※4) Power Purchase Agreement の略

お問い合わせ先

芙蓉総合リース株式会社 コーポレートコミュニケーション室 (担当) 斎藤・渡邊

電話番号 03 (5275) 8891 URL <https://www.fgl.co.jp/>



芙蓉総合リースは環境省が主催するESG・ファイナンス・アワード・ジャパンの
ボンド部門で、金賞（環境大臣賞）を受賞しました。